

## 若年性脳梗塞既往者において FMDと身体機能予後をみています

琉球大学医学部附属病院第三内科 仲地 耕 先生  
現：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 神経内科



琉球大学医学部および附属病院は、沖縄にある唯一の医師育成機関で、研究機関でもある高度先進医療施設です。第三内科では、循環器、腎臓・高血圧、神経・脳卒中の患者へFMD検査を行っています。私は神経・脳卒中が専門で、若年性脳梗塞既往者においてFMDと身体機能予後を見ました。

### 脳梗塞急性期のFMD低下は 機能予後不良と関連

脂質異常症を有する中高年者の脳卒中再発予防にエイコサペンタエン酸の有効性が示されています。また脳梗塞急性期のFMD低下は身体機能予後不良と関連するという報告があります。そこで私たちは中高年者と異なり、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの心血管病危険因子を有する割合が低い若年性脳梗塞既往例において、血中脂肪酸分画や血管内皮機能が身体機能予後と関連する可能性を考えて、血清エイコサペンタエン酸/アラキドン酸比(以下EPA/AA比と略す)及び血管内皮機能の指標であるFMDを測定しました。また脳梗塞発症から6カ月以上経過後の身体機能障害をmodified Rankin Scale(mRS)で評価しました。mRS 0-1を機能予後良好、mRS 2-6を機能予後不良と定義しました。

FMDが6.5%未満(4.6%)でEPA/AA比が0.3以上(0.43)の1例にはmRS1の上肢不全麻痺が見られました。これに対してFMDが6.5%以上(7.2~9.8%)の6例には、EPA/AA比に関わらず機能障害は見られませんでした。

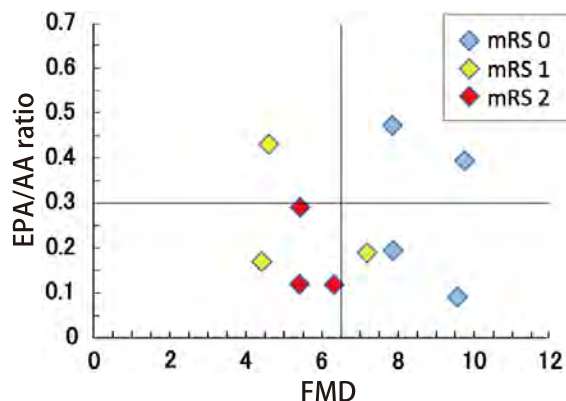


図1:EPA/AA比、FMDとmRSの関連

### FMD、EPA/AA比と身体機能予後

50歳以下(24歳から50歳)で非心原性脳梗塞を発症した10例(内訳:分類不能型 8例、アテローム血栓性脳梗塞 1例、ラクナ梗塞 1例)において、脳梗塞発症後3カ月以上経た時点でEPA/AA比とFMDを測定し、脳梗塞後の機能予後との関連を後方視的に検討しました。その結果、FMDが6.5%未満(4.4~6.3%)でEPA/AA比が0.3未満(0.12~0.29)の4例中3例に不全麻痺や部分半盲などmRS 2の機能障害が見られました。

### 身体機能予後の指標の1つとしてFMD検査を

今回の研究で若年性脳梗塞既往例において慢性期のFMD低値群に後遺症が残存していることがわかりました。またFMDとEPA/AA比を併用することでリスクの層別化が可能である可能性も示唆されました。若年性脳梗塞例においても血管内皮機能やEPA/AA比を評価することで身体機能予後を予測できる可能性があり、今後もその指標の1つとしてFMD検査を行っていききたいと思います。